



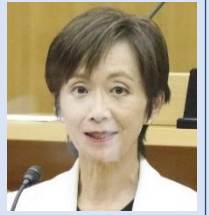
2023年  
(令和5年)  
夏号  
Vol.14

枚方市議会議員

# 奥野みか

すべての人々が、「今」を輝いて  
生きていける社会をつくる

- 奥野みかの活動報告(トピックス)  
～まずは暮らしの安全・安心を～
- 奥野みかの視点  
全員協議会  
～未来に対する責任を問う～  
6月定例月議会  
～暮らし続けられるまちを～
- 奥野みかの一般質問



## 奥野みかの活動報告(トピックス)

## ～まずは暮らしの安全・安心を～

### 課題解決に向けた一歩前進をめざします

4月の選挙では、多くの皆さまのご支援により、2期目の任期を担わせていただくことになり、感謝申し上げます。今回の選挙では、現市政の莫大な「無駄遣い計画」や「老朽化した危険な公共施設(市庁舎も含む)放置の現状」を指摘し、具体的な課題を焦点化してきました。まずは暮らしの安全・安心を。住みよいまち枚方のため、子どもたちにとっても住み続けたいまち枚方であるよう、皆さまとの対話を大切にしながら、課題解決に向けた一歩前進をめざしていきます。

今期1年目は、総務常任委員会(副委員長)、枚方市病院事業運営審議委員会(副委員長)、都市計画審議会の委員を担当します。



### みか's cafe を開催 ～ゆるやかに集まって「対話」を～

多様な皆さんとゆるやかに集まり、テーマを決めて問い、対話する「みか's cafe」をスタートしました。

もっとよい枚方をつくるために、皆さんと対話を通してつながることができればと考えています。

これまでのテーマは、学校のこと、孤独・孤立、相談について。総合文化芸術センター本館2Fのマルチスペースを基本に、月1回、開催していく予定です。



## 奥野みかの視点(全員協議会・6月定例月議会)

## ～市民や議会に適時・適切な説明ができているのか～

### 全員協議会 ～未来に対する責任を問う～

「枚方市駅周辺再整備における取り組み状況について」を案件とする全員協議会が、6月12日、開催されました。私が行った質疑の1つが、市が開催したシンポジウムにおいて伏見市長が語られた事業の「経済波及効果」についてです。

多額の税を使って行う枚方市駅周辺再整備の事業において最も大切なのは、大規模災害等に備えるなど市民の安全や暮らしを支えるために必要な公共的課題を解決することです。ゼネコンなどに支払われる費用で算出される経済効果額は、大半の市民にとって意味のあるものではありません。



しかし、伏見市長は、シンポジウムにおいて、この事業の枚方市内の経済効果を約1,400億円/年、約4,200億円/10年と胸を張って語られたのです。

ところが、私の質疑で明らかになったことは、この効果額の中には、断念したアリーナ整備の経済効果が数十億円含まれていたこと。また、どんな建築物や店舗ができるのか全く不確定なのに、勝手な見込みで算出していたことです。

伏見市長の答弁は、「市民にわかりやすく伝えるため」とのこと。わかりやすいだけに「嘘」は罪深いと指摘しました。

また、外壁等の崩落危険性が高い市庁舎本館や市民会館大ホール棟、職員会館、旧市民会館本館は現在の状態でいつまで残ることになるのか質問したところ、2033(令和15)年頃、⑤街区に新庁舎建設後に市庁舎の除却を想定、大ホール棟等は、土地区画整理事業の認可取得後に除却を想定との答弁でした。

あと10年、市庁舎をこのまま存続させるのは危険です。大規模災害に備えるため、危険なこれらの建築物はできる限り早期に解体撤去し、少しでも早く④街区の市有地内に市庁舎を整備するよう求めました。



### 6月定例月議会 ～暮らし続けられるまちを～

(※裏面に、6月定例月議会\_一般質問の質疑のポイントを掲載)

### 奥野みか ホームページ・フェイスブック

～皆さまのご意見・ご要望もお聞かせください～

<https://okuno-mika.com>

<https://www.facebook.com/mika.okuno.338>



## 奥野みか

6月定例会月議会 一般質問

## ポイント／淀川舟運への過剰な期待を振りまくのは控えるべき

(質問:「観光まちづくり」を支える淀川舟運事業の実現可能性について)

大阪関西万博を契機に、夢洲と枚方、さらに上流の京都府域までをつなぐ舟運実現に向けた取り組みを進めるとする市に対し、川船・海船の構造上の課題や淀川の水深の実態等から、夢洲から京都までの航路開拓の実現可能性は低く、事業採算性も見込めない。市政は、実現可能性の低い夢をふりまいて行うものではなく、市民の生活や社会の現実を踏まえて進めるべきと意見しました。伏見市長の答弁は「事業の採算性は事業者が検討する。事業が成り立つ土壌を作ることも自治体の仕事」と全く的外れなものでした。

【その後の状況】大阪関西万博の水上航路に関する説明会(7/19)が開催されました。川船・海船の乗換に関する計画は中之島 GATE ターミナル整備のみ、淀川舟運・京都までの航路開拓の具体化はありませんでした。



▲2022.125放送 読売TV「かんさい情報ネット ten」より引用



## ポイント／市駅周辺再整備基本計画の各街区整備にあわせて、隣接地域の公共課題の解決の検討も

(質問:旧京街道エリアの整備について)

旧幼児療育園跡地活用は、「既存建物活用という民間事業者からの提案を含め、様々な課題解決とあわせて最適な事業手法の構築に向け検討を行っている」との答弁。「旧幼児療育園跡地で検討している観光交流施設の整備のために」と2020年に受領した2億円の寄附金については、「枚方宿地域におけるにぎわい創出の拠点整備に要する財源として活用できるよう、適宜、寄附者との協議を進めている」との答弁でしたが、旧幼児療育園は空き家として放置され、すでに4年を過ぎています。「まずは老朽化した建築物を解体し、更地(広場)の暫定活用の検討を」との要望も行ってきましたが、廃止した老朽公共施設の取り扱いには非常に大きな課題です。時機を逸することなく、市は的確な判断を行うべきであると意見しました。

また、移転した枚方文化観光協会が担っていた役割、機能(観光ボランティアガイド等)をどう存続・承継していくのか、また、解散した枚方市文化国際財団が担っていた文化・国際化施策の推進に係る課題も確認しました。



## ポイント／市庁舎の⑤街区移転を前提とした④街区の再整備は根本的に見直すべき

(質問:枚方市駅周辺再整備事業に関連して必要となる上水道・下水道施設の整備について)

通常、民間事業者による開発事業では、上水道や下水道などの供給処理施設の整備費用は、開発行為等を行う民間事業者が負担します。現在、9割以上が市有地である④街区を現在の計画に従って土地区画整理事業で整備すると仮定すると、土地区画整理事業の施行者(ほぼ市が主体となります)の負担で「施行地区の内外において、事業に必要な範囲の上水道や下水道などの供給処理施設を整備する」こととなります。

市有地を民間事業者売却した場合、本来、開発行為等を行う民間事業者負担すべき事業費を、土地区画整理事業の名の下で公的に負担する、言い換えると、市が民間事業者「利益供与」することになりはしないかとの懸念を訴えました。

加えて、市内部での協議・検討・調整が重要な、市が主体となる土地区画整理事業であるにもかかわらず、関係部署間の連携がまったくできておらず、上水道や下水道などの供給処理施設の事業内容や事業費の見通し、財源負担のあり方等についても、事業管理者との協議が不十分ではないかと質問したところ、清水副市長から、「まちづくりの準備段階として概算事業費を示した。計画の熟度を段階的に高め、今後、より正確な、より確実性の高い事業内容を整えていく。土地区画整理事業の都市計画決定後に、上下水道の管理者とより詳細な協議を行う」との答弁がありました。

要するに、「今の段階では、計画の熟度も高くない。技術的や財政的な課題も整理できていない。事業内容も正確ではないし、確実性も低い。今、市議会や市民に示している財政シミュレーションも不確実なものだ」と告白されたような説明でした。

繰り返しになりますが、市庁舎の⑤街区移転を前提とする④街区の再整備は、根本的に見直すべきであると強く意見しました。



## ポイント／枚方市スポーツ協会が重要なパートナーとして活動できるための連携強化を要望

(質問:本市におけるスポーツ推進体制について)

スポーツを通じて健康を増進することの重要性がますます高まる中、専門性の高いスポーツ振興施策を市単独で担うのは不可能であることから、市内各加盟団体との連携による地域性や、民間事業者との柔軟な連携が取れる機動性を兼ね備えたスポーツ協会が、指定管理業務を担わなくなったとしても、本市の重要なパートナーとして活動できるための連携強化を要望しました。

